



# ENGINEER® の MPDP ダイアリー



高崎 充弘

## 第4回 MPDP 理論の実践：ムッシュ・マグニの場合 ③

[Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP 理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

ウ：ムッシュ・マグニ、Monsieur Magni、ムッシュ・マグニ……10回言うたけど、何も変わらない。

高：だから、少しずつ変えるんだよ。例えば、英語の Don't touch my mustache！（私の髭に触るな！）が有名だよ。“ドント タッチ マイ マシュタッシュ” → “ドンタッチマイマシュタ” → “ドウタチマシュタ” → “どういたしまして！”《バンザーイ！！》

ウ：ダジャレでっか〜？ まあ、それはエエとして、最後の《バンザーイ！！》は何ですのん？

高：シャレが成功したときの関西特有の喜びの表現だよ。さあ、ムッシュ・マグニでやってごらん！

ウ：“ムッシュ・マグニ” → “ムッシメグニ” → “ムッシメグネ” ……。

高：そうそう、その調子！！

ウ：“ムッシメガネ” → “ムシメガネ” → “虫眼鏡”

高&ウ：《バンザーイ！！》

ウ：ああ〜、スツとした。！(^^)!

高：前にも話したけど、今や私の書斎となっている銭湯のサウナ室で“虫眼鏡=Monsieur Magni”が浮かんだ瞬間、「これしかない！」って思ったんだ。

ウ：それまではどんなネーミングを考えてはったん？

高：例えば、折り畳んだり、伸ばしたりできる独特の動きから、尺取り虫をイメージしたんだ。

そこで「虫眼鏡」を逆さにして「メガネ虫」というネーミングが最初に浮かんで……、そして、ヨガの動きにも似ていることから、「メガネムシ YOGA」 「ヨガメガネムシ」などが次々に浮かんできた。

さっそく昆虫図鑑やヨガの本を買ってきて「メガネ科ヨガ目」にしようとか(笑)。サウナの中で何度もネーミングを繰り返しながら、初めて聞いた人がどんな印象を受けるかイメージしていったんだ。

ウ：せやけど、社長はんがサウナで「メガネヨガムシ」とかブツブツ咬いてはったら引きますわ〜。

高：もちろん、他にお客さんがいない時を見計らってやってるよ！ ホンマ、失礼なやっちゃ……。

ウ：すんまへん。最初はヨガが得意な「メガネムシ」やったのに、Monsieur Magniになった理由は？

高：海外に販売する際の「メガネムシ」の英語名をどうするか考え始めたんだ。

ウ：そこで前号のMagneticとMagnifierにつながっていくんでんな〜。

高：さっきの逆バージョンでいうと、“虫眼鏡”→“ムシマグニ”→“ムッシュ・マグニ”→“Monsieur Magni”

高&ウ：《バンザーイ！！》

ウ：ということはヒゲのオッチャンは？

高：言葉遊びから生まれたネーミングだったから、最初は影も形もなかったよ。

ウ：オッチャンの誕生秘話も知りたい〜！



## 「黄綬褒章」受章のご報告と御礼

このたび、平成25年春の国家褒章「黄綬褒章」を受章いたしました。このような栄誉に浴し、身に余る光栄です。5月15日、東京・一ツ橋の如水会館において下村博文文部科学大臣から黄綬褒章の伝達を受けました。

伝達式終了後、皇居・春秋の間にて天皇陛下の拝謁式に臨み、「これからも健康に留意して国と社会のためにそれぞれの業務に励まれることを希望します」というお言葉を賜りましたことを、ここに報告申し上げます。

これもひとえに受章対象となりました「ネジザウルス」を長年ご愛顧い

ただいたお客さま、ならびにご指導を賜りました知的財産関係の皆さまのお陰です。心より御礼申し上げます。また共に汗を流してきた社員とその家族と一緒にこの喜びを分かち合いたいと思います。

さて、私は大学卒業後の10年間、岡山県の造船会社で船用ディーゼルエンジンのトラブルシュートを担当し、世界中を飛び回っていました。1982年には米国レンスラー工科大学大学院に留学、Tribologyという潤滑、摩擦、摩耗、焼き付けなどを対象とする分野の研究を行っていました。

造船会社での仕事は面白く、上司や先輩にも恵まれましたが、高齢だった父や叔父の仕事を手伝わなければならないということで、1987年に家業である作業工具メーカーに入社しました。将来、この会社を自分の力で成長させるとい希望を持っていましたが、当初は大企業と

中小企業の仕事の進め方のギャップだけでなく、ペンチなどのローテクな作業工具の将来性に不安を感じる日々が続きました。

その後、トラブルの原因究明に造船会社時代の経験を活かせるようになり、新製品も25年間で800アイテムと数多く開発しました。

特許や実用新案なども15年以上前から積極的に出願していました。

頭がつぶれたネジを簡単に外せる工具「ネジザウルス」は、2002年の発売開始以来、考案改良を続けて2009年に4代目となる「ネジザウルスGT」が完成し、国内外で特許、実用新案、意匠、

商標など15件が権利化されています。

お陰さまで、それまでの3機種と比べて数倍以上の売り上げとなり、シリーズ累計158万本（2013年5月末時点）という実績の大半を「ネジザウルスGT」が占めています。この成功要因を分析して得られたのが、本コラムのタイトルにも掲げている「MPDP」です。

なかでも、多くの中小企業にとってボトルネックになっているのが“Patent”です。「知的財産管理技能検定」の普及によってそれを解消し、モノづくり立国の再生を目指す日本にいくばくかの恩返しができれば幸いです。

また、今回の受章を機に、「脳」と「道具」の関係を見つめ直し、人類に今日の繁栄をもたらした「道具」をさらに進化させ、イノベティブな製品を開発してまいたいと考えています。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



写真左：妻のみゆき、写真右：娘の真央（如水会館にて）